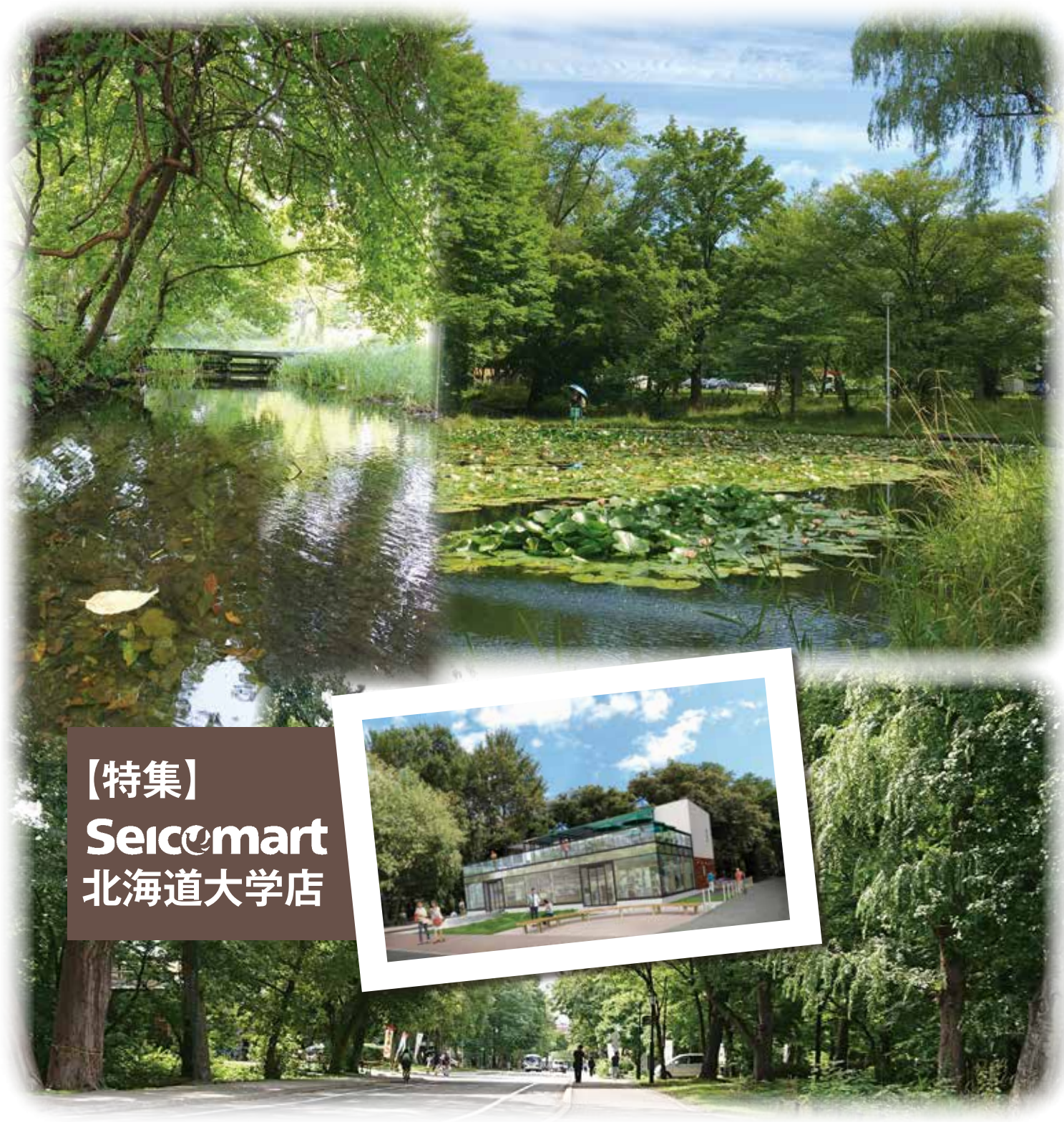




北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

財務データでみる北海道大学

財務レポート2019



【特集】

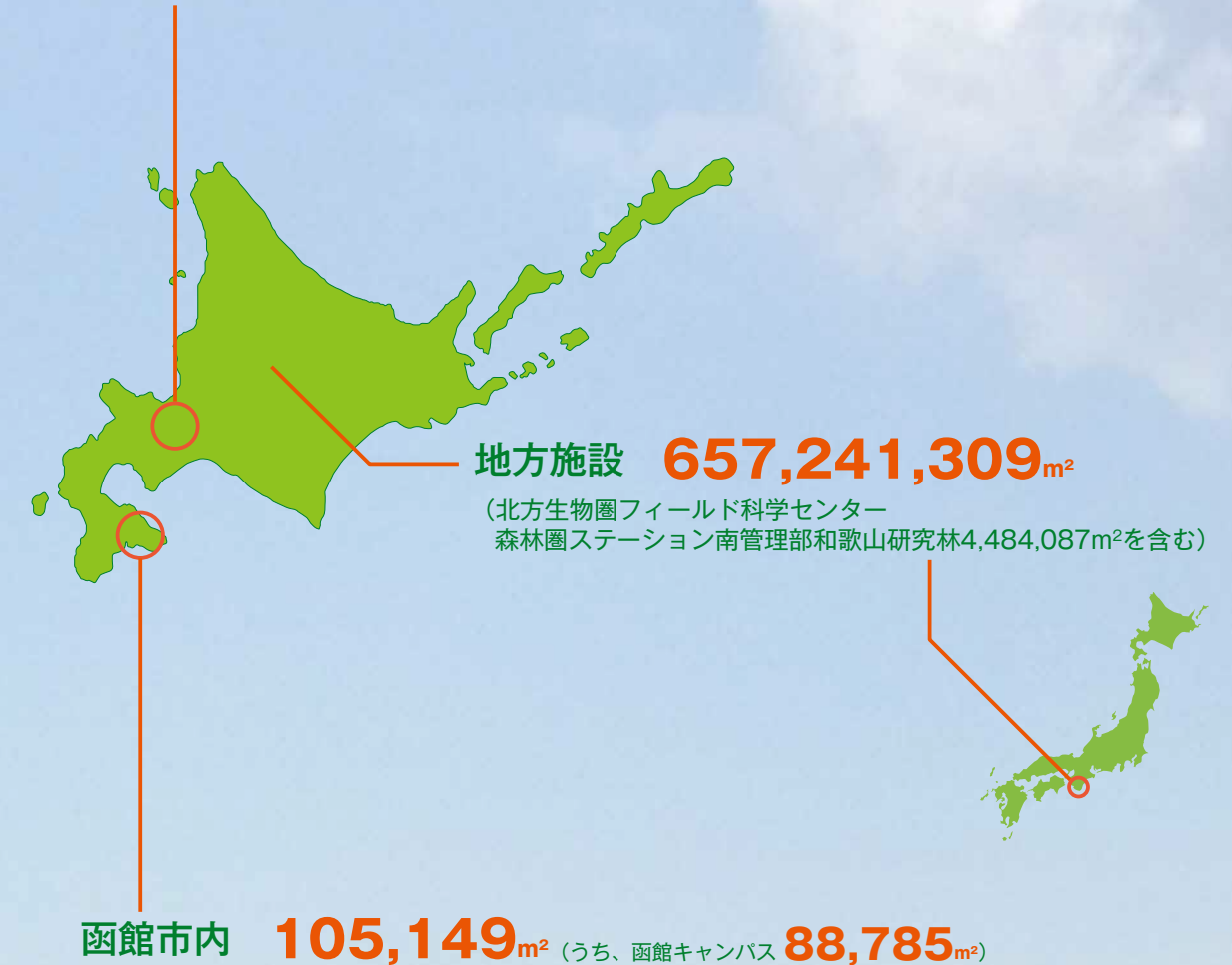
Seicomart
北海道大学店

北海道大学の基礎データ

■ 学生数	17,756人 (令和元年5月1日現在) (学部学生 11,311人 博士前期 3,906人 博士後期 2,364人 専門職学位 175人)
■ 教職員数	4,577人 (令和元年5月1日現在) (役員 8人 教員 2,066人 職員 2,503人)
■ 国際交流	
外国人教職員数	161人 (令和元年6月1日現在)
外国人留学生数	103か国・地域 2,223人 (令和元年5月1日現在)
国際交流協定数	69か国・地域 681本 (平成31年4月1日現在)
■ 病床数	924床 (平成31年4月1日現在)
■ 蔵書数	3,779,843冊 (平成31年3月31日現在)
■ 学位授与数	223,017人 (令和元年5月1日現在) (学士 144,263人 修士 51,764人 博士 25,354人 専門職学位 1,636人)
■ 学部数	12学部 (平成31年4月1日現在)
■ 研究科・学院数	1研究科 19学院 1教育部 (平成31年4月1日現在)

■ 敷地面積※ **660,235,026m²** (平成31年4月1日現在)

札幌市内 **2,888,568m²** (うち、札幌キャンパス **1,776,249m²**)



総面積は東京23区 (627km²) よりも広いんです!
札幌キャンパスは皇居 (115万m²) の1.5倍!



※各面積は単位未満を四捨五入しているため、計は一致しない場合があります。

財務レポート2019 目次

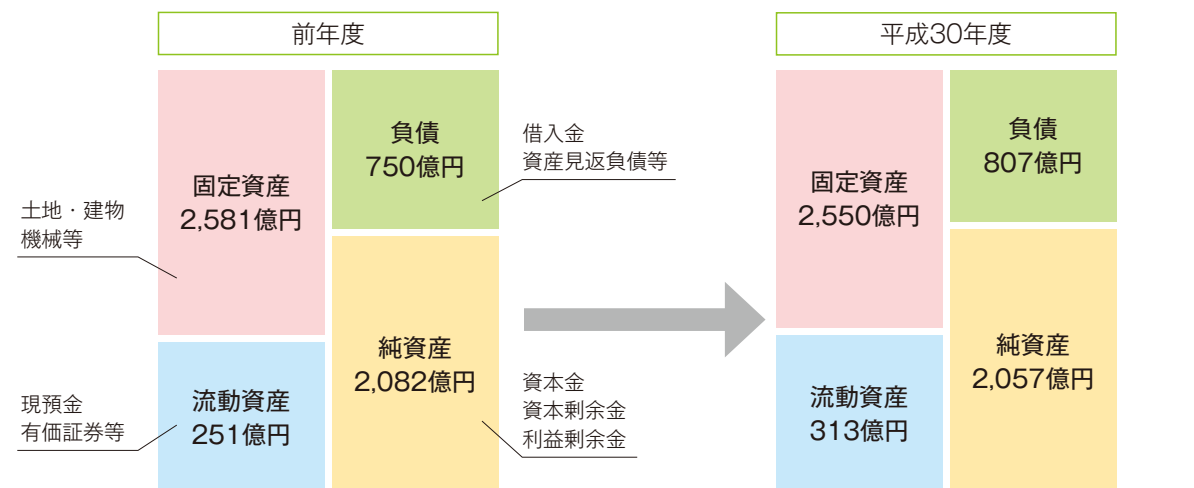
北海道大学の基礎データ	1	特集「セイコーマート北海道大学店」	9
北大の平成30事業年度決算概要	3	国立大学法人の会計制度について	11
北大の財務構造	4	財務諸表等の説明	13
収入内訳の推移	5	財務指標	16
支出の内訳	6	北大フロンティア基金の取組み	18
トピックス	7		

北大の平成30事業年度決算概要

国立大学法人は、毎年度財務諸表を作成して、財務状況や運営状況を明らかにし、文部科学大臣に提出し承認を受けています。主な財務諸表の概要は以下のとおりです。

貸借対照表（B/S）

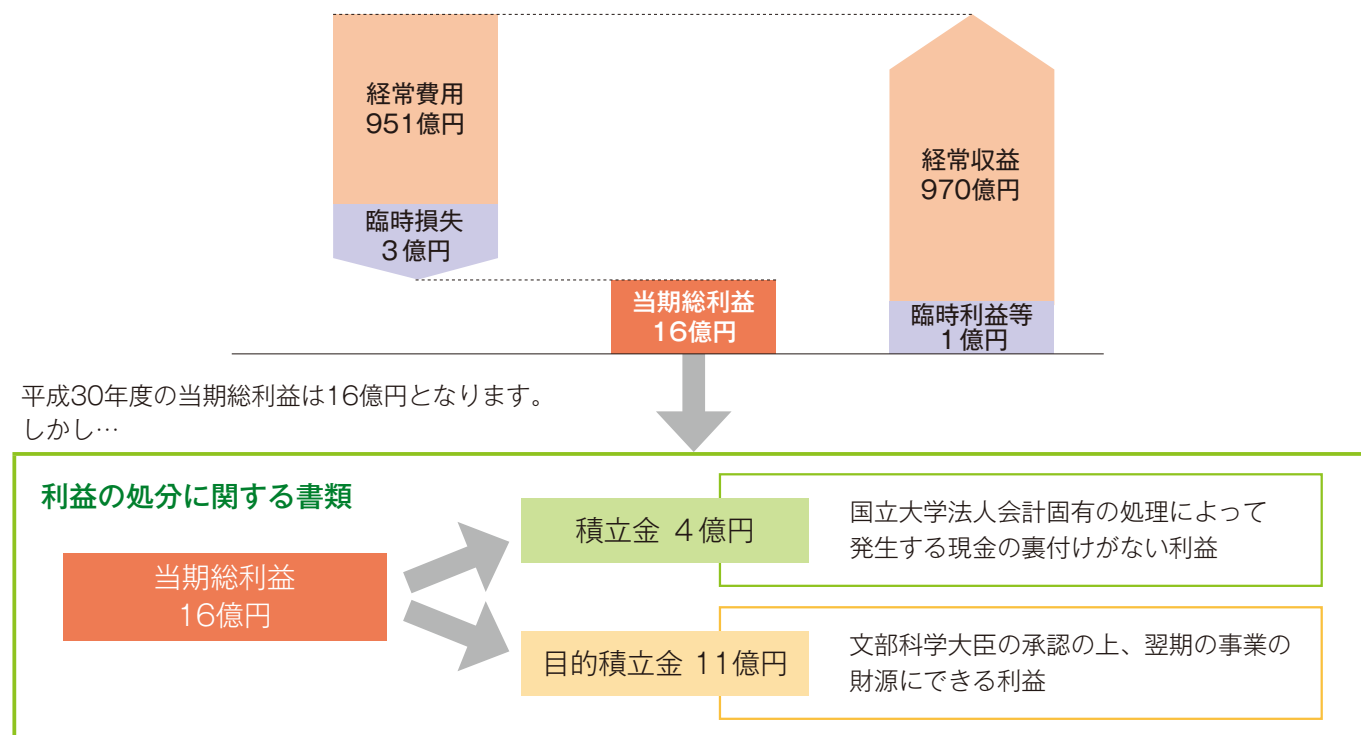
決算日（3月31日）における大学の資産等の保有状況



平成30年度は、資金運用による定期預金の預入等により、資産が31億円増加しました。

損益計算書（P/L）

一事業年度（4月1日から翌3月31日）における大学の運営状況



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

※詳細は11ページ以降をご覧ください。

目的積立金は今後、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に使います。



クラーク君

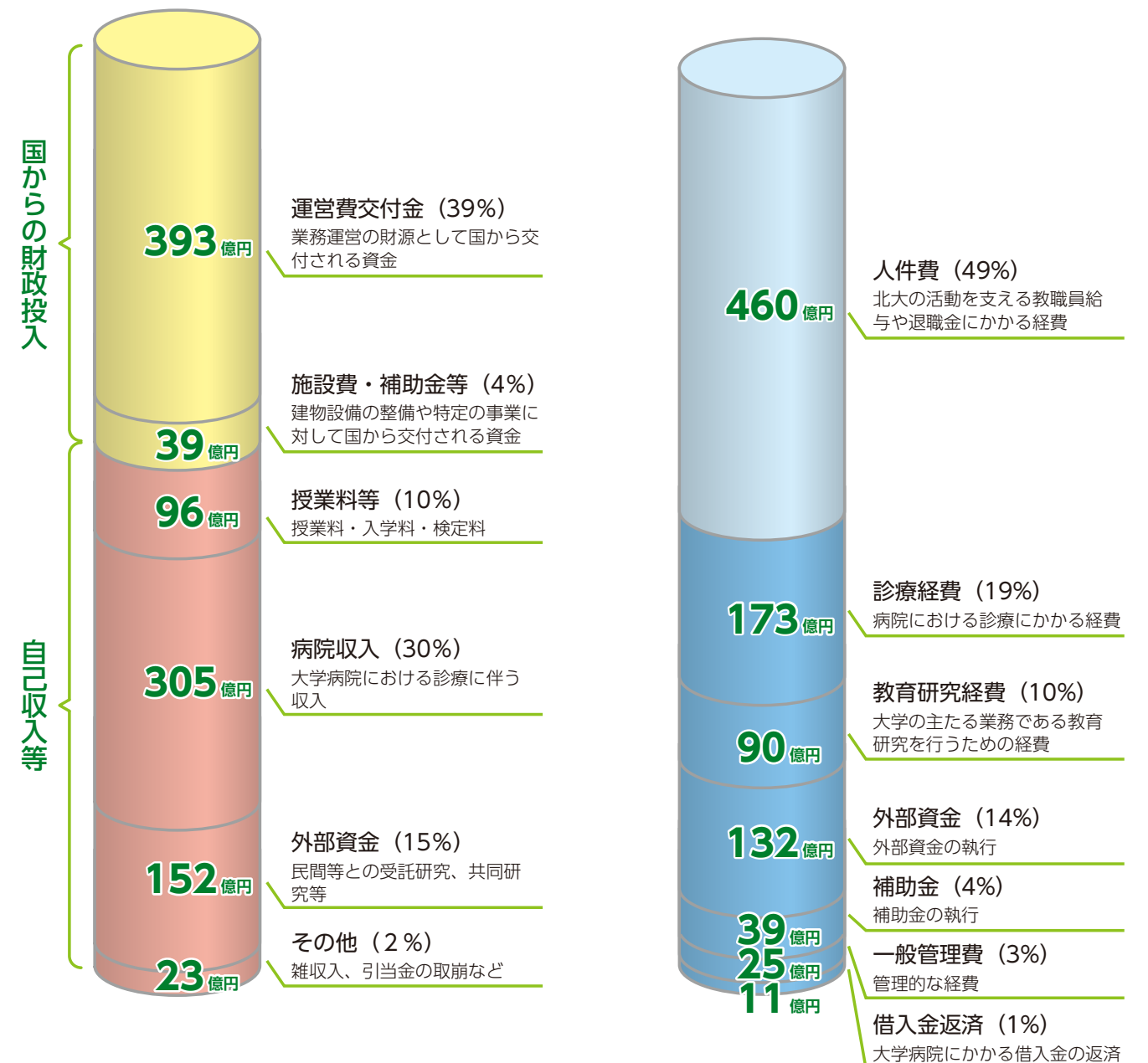
北大の財務構造

北大にいくらお金が入ってきて、それを何に使ったか、国と同様の基準で作成される決算報告書（現金主義）を元に表しています。国立大学法人特有の会計処理を行った結果である、損益計算書（発生主義）とは一致しません。

国からの財政投入と自己収入等、およそ半々で運営資金を賄っており、支出の約半分が人件費であることが特徴です。

収入：1,012 億円

支出：933 億円



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

※決算報告書の詳細は、P15をご覧ください。

収入は国からの財政投入と自己収入が半々、支出は約半分を人件費が占めています。



クラーク君

収入内訳の推移

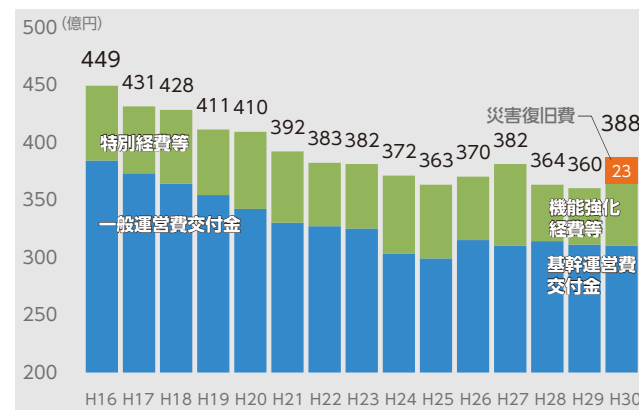
ポイント1 運営費交付金は減少傾向

国から交付される運営費交付金は、法人化当初の平成16年度と比較すると61億円も削減されています。

このため、経営の効率化を図り、外部資金等の自己収入の増収策を講じる必要があります。

H30年度は交付額が増加していますが、胆振東部地震等に係る災害復旧費が措置されたことによるものです。

※各年度に交付された金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の運営費交付金収入（P4・P15）や業務の進捗度に応じ計上される損益計算書上の運営費交付金収益（P14）とは一致しません。
※H28から運営費交付金の各名称が変更されております。

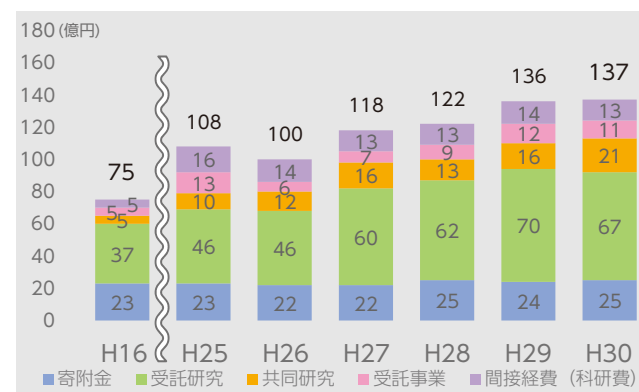


ポイント2 外部資金の獲得拡大に取り組んでいます

国立大学の事業拡大のためには、民間等の資金を受入れて研究等を行う外部資金の獲得が重要となります。

北大においても、研究者が企業等にシーズの発表を行う説明会を開催する等、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

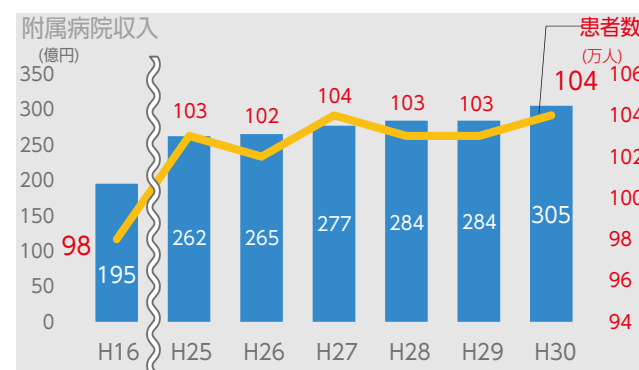
※各年度に受入した金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の外部資金収入（P4・P15）とは一致しません。



ポイント3 大学病院の経営努力により病院収入は増加しています

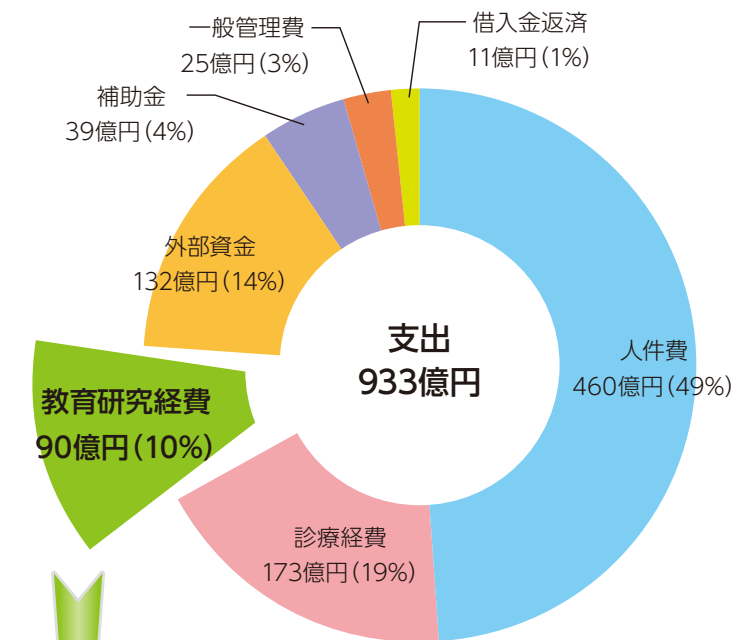
大学病院は、医療人材を養成し、高度医療の提供や、新治療法の研究開発を通じ、安心安全な国民生活を実現する使命を負っており、利益のみを追求しているわけではありません。

北大病院は、これらの使命を着実に果たしつつ、保有資産（診療機器等）の見直しによる経費の削減、手術件数の増や病床稼働率の向上による増収など、様々な経営努力を行っています。



支出の内訳

■ 支出の内訳（決算報告書より）



■ 教育研究経費の内訳

大学が教育・研究を行うにあたり、具体的には以下のような用途に使っています。



費目	説明	金額
設備・備品費	教育・研究を行うため設備や機器を購入しています。	12億円
業務委託費	大学運営にあたり業者に業務を委託した金額。清掃や警備の委託費があたります。	14億円
消耗品費	試薬等、すぐに費消してしまうものを購入した場合、この費目を計上します。	11億円
水道光熱費	水道や電気ガス代など	10億円
旅費交通費	教員の学会出席やフィールドワークのための交通費。	11億円
図書費	教育・研究に欠かせない資料である書籍など。	6億円
保守・修繕費	教育・研究機器や設備の保守や故障した場合の修理費。	10億円
その他	機器のリース料や授業料免除にかかる費用など。	11億円
合 計		90億円

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

教育・研究関係

【『世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）』に採択 ～化学反応創成研究拠点（ICReDD）』の開始～】（H30.10）

平成30年度文部科学省国際研究拠点形成促進事業費補助金「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に、本学が申請した拠点構想「化学反応創成研究拠点（Institute for Chemical Reaction Design and Discovery (ICReDD)）」が採択されました。事業期間は10年間で、毎年7億円程度の補助金が交付されます。

本事業は、高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を目指すもので、国からの集中的な支援により、「世界最高水準の研究」、「融合領域の創出」、「国際的な研究環境の実現」及び「研究組織の改革」に取り組み、世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る「目に見える拠点」となることが求められます。

本拠点では、拠点長である前田教授が開発した「人工力誘起反応法」によって未知の化学反応の経路を系統的に明らかにし、得られる膨大な経路ネットワークを情報科学を用いて包括的に解析することによって、調べる価値の高い経路を絞り込みます。さらに、得られた経路の候補に基づいて実際に新物質を合成します。このように計算科学、情報科学、実験科学の3つの学問分野が目的を同じくして一同に会することで、新たな学問分野である「化学反応創成学」を確立し、新世代のものづくりを実現します。また、異分野融合研究を加速することで、非常に複雑な化学反応が正確に理解され、未来の私たちの生活を支える新物質を短時間で発見できるだけでなく、生命に関わる未知の現象が解明され、医療・医薬の飛躍的な発展にも波及します。

新しい学問分野の基盤を強固にするためには、若手研究者の育成と、その世界レベルでのネットワーク形成が非常に重要です。そこで本拠点では、「化学反応創成学」を世界中の研究者や大学院生に伝える「MANABIYA（学び舎）システム」を構築し、高度人材の世界的循環と分野横断型共同研究の実現を目指します。そして10年後には、世界中のトップ研究者から若手研究者まで数百人が参画する巨大ネットワークが完成し、新たな研究分野の発展が期待されます。



【学際大規模計算機システムを更新 処理能力は前システムの20倍以上】（H30.12）

情報基盤センターは、平成30年12月、スーパーコンピューティングシステムとクラウドシステムから構成される「学際大規模計算機システム」を更新し、新システム「北海道大学ハイパフォーマンスインタークラウド」によるサービスを開始しました。スーパーコンピューティングシステムの処理能力は前システムの23倍向上し、世界ランキング95位*の性能を誇ります。全国の研究機関や企業も利用可能です。

最新技術を駆使した富士通株式会社製のスーパーコンピューティングシステムは、主力機であるグラン・シャリオ（サブシステムA）と、低消費電力性に優れたポレール（サブシステムB）、合わせて約1,300台のPCサーバで構成されています。全体の演算性能は約4ペタフロップス、ストレージシステムの物理容量は16ペタバイトです。

クラウドシステムは64台のPCサーバを学内に設置するのに加え、関東、関西、九州の遠隔拠点にも計7台を設置しました。これらを学術情報ネットワークにより相互接続することで、北海道から九州に至る全国規模の広域分散クラウドシステムを実現しました。また、北見工業大学に研究データの長期保管可能なアーカイブシステムを設置することで、災害時などにも十分対応できるようにしています。

学生や若手研究者も活用できるよう負担額のコストダウンにも注力し、電気料金相当の金額での利用を実現しました。申請方法や、その他詳細事項は下記URLをご覧ください。

学際大規模計算機システムホームページ
<https://www.hucc.hokudai.ac.jp>



※HPLベンチマークによるコンピュータの性能ランキング。2018年11月、スーパーコンピューティングの国際会議「Supercomputing Conference (SC)」のアメリカでの開催に合わせて発表されたもの。

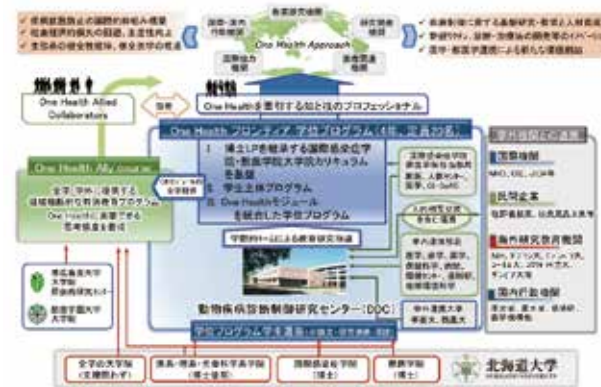
【文部科学省「卓越大学院プログラム」に本学の 「One Healthフロンティア卓越大学院」が採択】（H30.10）

文部科学省の新規事業である「卓越大学院プログラム」（平成30年度）について、本学の「One Healthフロンティア卓越大学院」が採択されました。

世界では、予防・治療薬の開発や防疫対策の推進により制御が可能となった感染症がある一方で、新興・再興感染症は次々に出現し、人類の脅威となっています。また、化学物質による人と動物の健康被害、生態系の破壊は、人間が生活の利便性を享受する限り絶えず発生しています。これらの発生に国境はなく、現代に生きる我々は、健康被害を引き起こすハザード（感染症病原体と化学物質）から、人や動物の健全な生活環境を守り、持続可能かつ健全な生活環境・生態系を次世代に引き継ぐ使命を有します。

大学院獣医学院・国際感染症学院が中心となって推進する本プログラムでは、疾病制御・予防の理念を明確に持ち、バランス感覚に優れた国際性を備え、動物、人および生態系の健康を俯瞰的に捉えOne Healthに係る問題解決策をデザインして実行できる専門家（知と技のプロフェッショナル）を育成します。

本プログラムは、総合大学の利点を活かし、獣医学、感染症学、医歯薬学、保健科学、環境科学などが協働し、さらに国際行政・協力機関、連携他大学および民間企業との連携体制を整えた教育プログラムで、特徴的なものとしては、One Healthのエッセンスを、文系理系の学生に幅広く提供する、領域横断的な学院間・大学間共通特別教育プログラム「One Health Allyコース」の開講、また、多様な人材が、組織・研究室・部門の壁を超えてOne Healthを共通目標に集い協働する、実践教育と研究を進めるプラットフォーム「動物疾病診断制御研究センター（DDC）」の設置が挙げられます。



病院関係

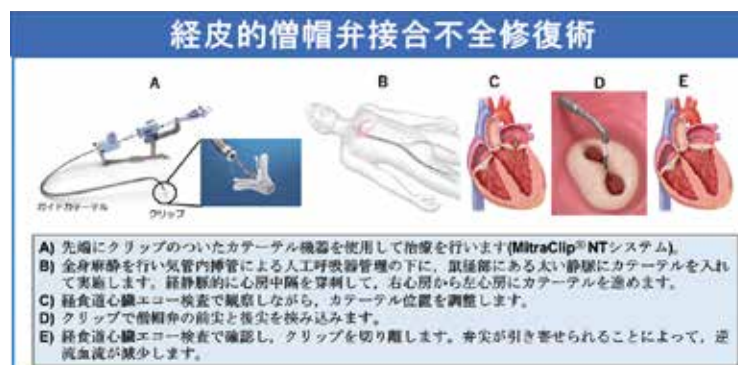
【～北海道内で初めて成功～ 北海道大学病院でカテーテルを用いた 「経皮的僧帽弁接合不全修復術」が始まる】（H30.12）

僧帽弁逆流閉鎖不全症に対する新しい治療「経皮的僧帽弁接合不全修復術」が、平成30年12月5日に北海道大学病院循環器内科で行われました。本治療は、平成30年4月より保険適応となったものであり、北海道内では初の治療となります。

心臓の中の左心房と左心室の間にある大きな前・後の2枚の膜が「僧帽弁」です。「僧帽弁閉鎖不全症」とは、この僧帽弁の閉鎖機能が悪くなり、本来の血液の流れとは逆に、左心室から左心房に血液が逆流してしまう状態を指します。僧帽弁閉鎖不全症が進行して心臓や肺に負担がかかると、息切れ、呼吸苦や浮腫（むくみ）など、心不全症状を呈してきます。

北海道大学病院循環器内科が北海道内で初めて成功した『経皮的僧帽弁接合不全修復術』とは、カテーテルを用いて足の静脈から直接心臓に到達し、『クリップ』で僧帽弁の前尖と後尖をつかんで引き合わせることで、逆流量の減少、心不全症状を改善する治療です（右図）。

開胸（胸を開く手術）や人工心肺（ご自分の心臓の拍動を止めて機械により血液を循環する）を用いる従来の外科的心臓手術よりも体にかかる負担が少ないため、年齢や併存疾患などのために、これまで手術を断念されていた患者さんに対しても治療が可能となります。



【特集】Seicomart 北海道大学店



2018 年 7 月、北海道大学キャンパス内にコンビニエンスストア「セイコーマート北海道大学店」がオープンしました。北海道内で 1,100 店舗を展開するセイコーマートは、オレンジ色の看板で親しまれていますが、北海道大学店ではオレンジ色は使用していません。北大キャンパスの自然に溶け込む建物を目指し、ハルニレの木々を映すガラス面の外観が特徴的な店舗です。

場所は大野池の向かい側すぐ。外観だけでなく、木造のあたたかみを生かした内装、2 階の休憩スペース・オープンテラス、店舗前のベンチなど、キャンパス内の豊かな自然を感じることができます。



◀ 北海道の厳しい冬にも耐えられる気密性・断熱性に優れたあたたかい木造の空間。キャンパスライフに必要な様々な商品を取り揃えています。



▲ 2019 年「北大どら焼き」を開発し店舗にて販売を開始。現在では北大店のお土産の目玉になりつつあります。焼き印は北大の象徴の一つであるイチョウをモチーフにしています。

◀ 店内で調理しているフライドチキンやおにぎり、カツ丼などの種類豊富なお弁当が並ぶ HOT CHEF は大人気です。



※イメージ写真



◀ 北海道大学 COI「食と健康の達人」拠点と、株式会社セコマが共同で開発したアイスも店頭で購入可能。アイスでおいしくたんぱく質を補給することを目的に開発された商品で、北海道大学病院の患者さんにも提供されました。

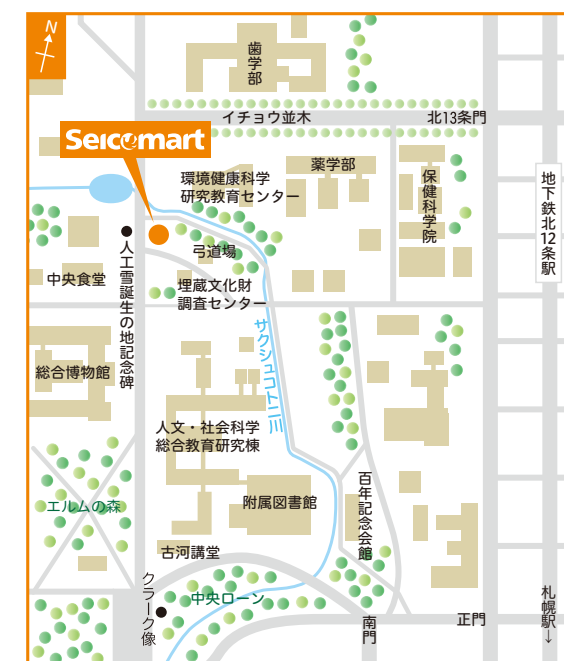


▲ 2 階の屋外テラス席は、北大キャンパスの自然を直接感じられる広々とした空間。夏期には北大の伝統であるジンギスカンパーティー「ジンパ」を楽しむことができます。ご予約いただければ、席だけでなく食材やコンロも店舗で準備いたします。



▲ フリー Wi-Fi も完備した 2 階の休憩スペースは広々とした明るい空間（エレベーターも完備）。また、IH クッキングヒーターやレンジなどが設置されているキッチンラボも設置。新国立競技場にも使用される北海道紋別産の森林認証木材を使用しています。

▶ 店内のレジ後ろに設置した Seicomart の看板には、北海道大学構内で倒木したハルニレが使われています。



Seicomart

セイコーマート 北海道大学店

札幌市北区北 11 条西 7 丁目（北海道大学構内）
24 時間営業 TEL 011-768-8246

国立大学法人の会計制度について

1. 国立大学法人の会計制度

国立大学法人の会計制度は、複式簿記・発生主義という点では、企業会計に準じつつ、国立大学法人における業務の特殊性を考慮し、企業会計には見られない会計処理を取り入れたものとなっています。

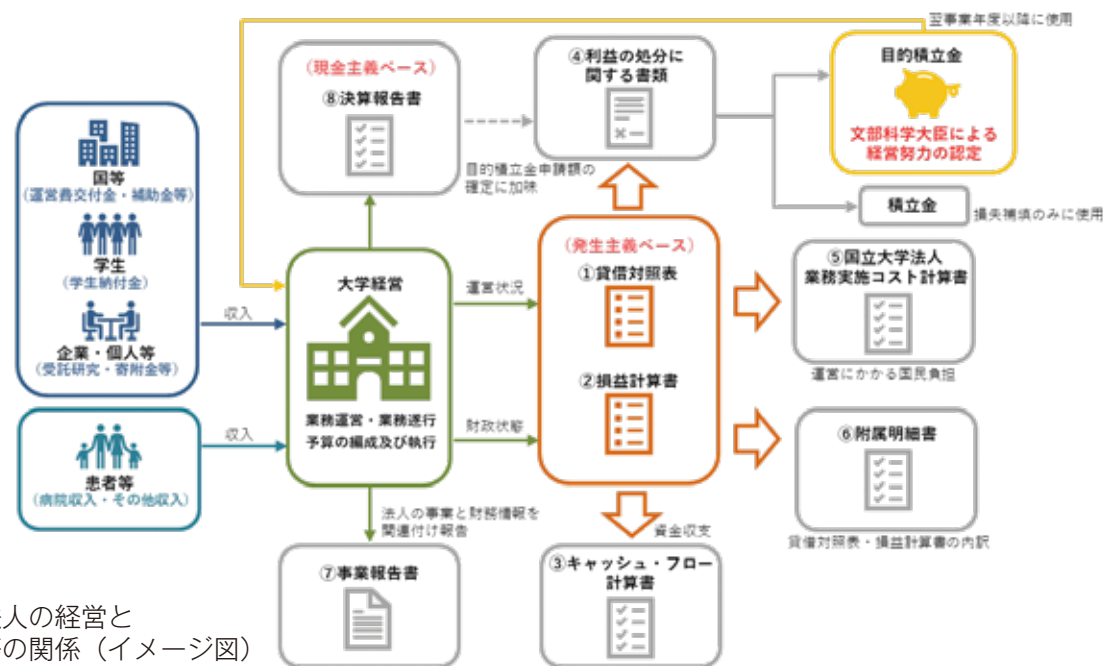
国立大学法人と民間企業との主な会計制度の主な相違点は以下のようになります。

<国立大学法人と民間企業との会計制度の違い>

	国立大学法人	民間企業
記帳形式	複式簿記	複式簿記
認識基準	発生主義	発生主義
会計基準	国立大学法人会計基準	企業会計原則
主な業務の目的	公共的性格を有する教育・研究等の推進	利害関係者の利益の最大化・企業価値の最大化
利益の獲得	目的としない	目的とする

2. 国立大学法人の財務諸表等

国立大学法人は、決算書（財務諸表等）を作成し、事業年度終了後3か月以内に文部科学大臣へ提出し、承認を得ることとされています。国立大学法人の経営と財務諸表等の関係は以下のようになります。



国立大学法人の経営と財務諸表等の関係（イメージ図）

財務諸表の解説	
① 貸借対照表（B/S）	決算日（3月31日）における財政状況を明らかにするために、決算日におけるすべての資産、負債及び純資産を記載し、報告します。
② 損益計算書（P/L）	一事業年度（4月1日～3月31日）の運営状況を明らかにするために、実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載し、報告します。
③ キャッシュ・フロー計算書（C/F）	一事業年度の資金の調達や運営状況を明らかにするために、資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の区分に分けて記載し、報告します。
④ 利益の処分又は損失の処理に関する書類	貸借対照表で算定された当期末処分利益と損益計算書で算定された当期総利益の処分の内容を表します。
⑤ 国立大学法人業務実施コスト計算書	一事業年度の教育・研究・診療等の業務運営に要した費用（コスト）における、国民負担額（国民の税金で賄われている金額）を表します。
⑥ 附属明細書	①～⑤の書類の内容を補足します。

上記のほか、⑦事業報告書及び⑧決算報告書を①～⑥財務諸表に添付して提出します。

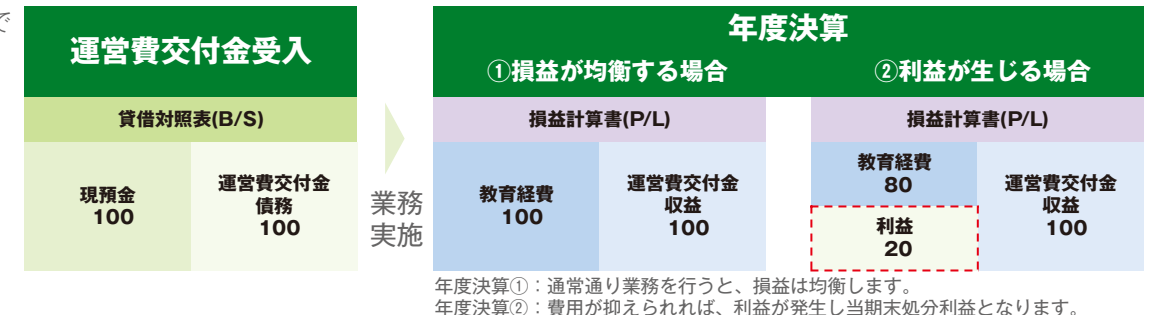
3. 国立大学法人特有の会計処理について

国立大学法人特有の会計処理として、主に次のような会計処理が挙げられます。

①収益の認識

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などは教育研究等の業務を実施する義務があることから、受領した際に一旦債務（負債）に計上し、その後、業務実施に伴い収益に替える会計処理をします。

例）運営費交付金で業務を実施



・運営費交付金の収益化基準

期間進行基準：時の経過に伴い業務が実施されたものとみなして運営費交付金債務を収益化（原則）
業務達成基準：業務の実施に伴い運営費交付金債務を収益化（プロジェクト研究等）
費用進行基準：費用の発生額と同額の業務が実施されたものとみなして運営費交付金を収益化（退職給付金等）

②損益均衡

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などで固定資産を取得した場合、受領時の債務（負債）を「資産見返負債」に振り替えます。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債、収益・費用が均衡します。

例）授業料で資産を取得



③損益に影響しない会計処理

施設費等は、施設等の更新が必要となるときに出資者である国が責任をもって措置するものであることから、費用として認識しないこととなっています。したがって、償却資産を取得した場合、取得価格を資本剰余金（純資産）に振替え、減価償却時には減価償却費ではなく損益外減価償却累計額（資本剰余金のマイナス科目）を計上して、資本剰余金を減少します。

例）国から措置された施設費で資産を取得



④利益の処分

未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣から承認を受けた金額は目的積立金となり、中期計画で定められた剰余金の使途の範囲内において、翌年度以降に使用することが可能になります。



各事業年度の財務諸表等については、以下のホームページにて公表しております。
北海道大学ホームページ>広報・公開>情報公開等>法令等に基づく公表事項>独立行政法人等情報公開法第22条に規定する情報>財務に関する情報
<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/22jo/finance/>



財務諸表等の説明

① 貸借対照表（B/S）

貸借対照表は、決算日（3月31日）における本学の財政状況（資産、負債及び純資産の状況）を表します。
(単位：百万円)

資産の部			
	平成29年度	平成30年度	増減
I 固定資産	258,118	255,080	△3,038
1 有形固定資産	254,330	251,189	△3,141
土地	128,141	128,141	0
建物	82,234	77,767	△4,467
構築物	2,213	2,029	△184
工具器具備品	13,692	15,568	1,876
図書	22,390	22,089	△301
美術品・収蔵品	318	333	15
船舶	4,625	4,063	△562
その他	714	1,195	481
2 無形固定資産	680	753	73
ソフトウェア	247	293	46
その他	432	458	26
3 投資その他の資産	3,106	3,136	30
投資有価証券	2,532	2,325	△207
その他	572	808	236
II 流動資産	25,151	31,365	6,214
現金及び預金	15,705	23,035	7,330
未収学生納付金収入	164	143	△21
未収附属病院収入	6,043	6,047	4
未収入金	1,023	1,045	22
有価証券	1,294	200	△1,094
たな卸資産	55	51	△4
医薬品及び診療材料	556	594	38
その他	306	247	△59
資産合計	283,269	286,446	3,177

負債の部			
	平成29年度	平成30年度	増減
I 固定負債	51,966	52,320	354
資産見返負債	47,886	46,703	△1,183
債務負担金	1,750	893	△857
引当金	414	463	49
長期未払金	925	3,254	2,329
資産除去債務	990	1,005	15
II 流動負債	23,099	28,402	5,303
運営費交付金債務	1,480	4,953	3,473
寄附金債務	8,071	8,342	271
前受受託研究費等	1,581	2,112	531
1年以内返済債務負担金	1,092	856	△236
未払金	8,247	9,471	1,224
その他	2,623	2,661	38
負債合計	75,066	80,722	5,656

純資産の部			
	平成29年度	平成30年度	増減
I 資本金	154,570	154,570	0
II 資本剰余金	19,573	15,558	△4,015
III 利益剰余金	34,059	35,594	1,535
前中期目標期間繰越積立金	29,202	29,201	△1
目的積立金	255	1,173	918
積立金	1,209	3,567	2,358
当期末処分利益	3,392	1,652	△1,740
純資産合計	208,203	205,723	△2,480
負債・純資産合計	283,269	286,446	3,177

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

●主な増減要因

【資産】

- 建物：△4,467百万円
※減価償却累計額の増
- 工具器具備品：＋1,876百万円
※新規取得による増
- 現金及び預金：＋7,330百万円
※資金運用による定期預金の預入等に伴う増

【負債】

- 長期未払金：＋2,329百万円
※リース資産取得に伴う未払金の増
- 運営費交付金債務：＋3,473百万円
※災害復旧に係る補正予算の繰越による増
- 資本剰余金：△4,015百万円
※施設費等で整備された資産に係る減価償却費の増

② 損益計算書（P/L）

損益計算書は、一事業年度の運営状況を表したものです。

(単位：百万円)

費 用			
	平成29年度	平成30年度	増減
I 経常費用	93,563	95,193	1,630
業務費	90,552	92,130	1,578
教育経費	5,566	5,770	204
研究経費	9,085	8,680	△405
診療経費	17,503	18,337	834
教育研究支援経費	1,579	1,756	177
受託研究費	6,909	6,775	△134
共同研究費	1,655	1,794	139
受託事業費	1,216	1,036	△180
人件費	47,036	47,977	941
一般管理費	2,850	2,951	101
財務費用	159	111	△48
雑損	0	0	0
II 臨時損失	350	360	10
費用合計	93,913	95,553	1,640

当期総利益	3,392	1,652	△1,740
-------	-------	-------	--------

計	97,305	97,205	△100
---	--------	--------	------

収 益			
	平成29年度	平成30年度	増減
I 経常収益	97,271	97,069	△202
運営費交付金収益	35,116	34,747	△369
学生納付金収益	10,098	10,130	32
附属病院収益	29,482	30,632	1,150
受託研究収益	7,094	6,674	△420
共同研究収益	1,650	1,806	156
受託事業等収益	1,228	1,033	△195
寄附金収益	1,983	1,992	9
施設費収益	259	74	△185
補助金収益	2,042	2,052	10
資産見返負債戻入	5,268	4,827	△441
財務収益	10	6	△4
雑益	3,036	3,090	54
II 臨時利益	32	135	103
収益合計	97,303	97,204	△99

目的積立金等取崩額	2	1	△1
-----------	---	---	----

計	97,305	97,205	△100
---	--------	--------	------

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

●主な増減要因

【経常費用】

- 研究経費：△405百万円
※減価償却費の減、賃借料の減
- 診療経費：＋834百万円
※患者数増に伴う医薬品等材料費の増
- 人件費：＋941百万円
※退職者の増

【経常収益】

- 附属病院収益：＋1,150百万円
※入院診療収益、外来診療収益の増
- 受託研究収益：△420百万円
※執行額減に伴う収益化額の減
- 資産見返負債戻入：△441百万円
※減価償却費の減

③ キャッシュ・フロー計算書（C/F）

キャッシュ・フロー計算書は、一事業年度のお金の流れを表します。
平成30年度においては、業務活動で獲得した資金を設備投資や借入金の返済に充てたことが分かります。

(単位：百万円)

	平成29年度	平成30年度	差額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	7,011	11,909	4,898
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,983	△6,005	△3,022
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,356	△2,074	282
IV 資金に係る換算差額	0	0	0
V 資金増加額（I＋II＋III＋IV）	1,672	3,828	2,156
VI 資金期首残高	10,033	11,705	1,672
VII 資金期末残高（V＋VI）	11,705	15,535	3,830

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究及び診療など、大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を表します。
【収入>支出（＋表示）、収入<支出（－表示）】

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

将来の運営基盤を確立するための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。
【設備投資の抑制（＋表示）、設備投資の拡大（－表示）】

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を表します。
【借入の拡大（＋表示）、返済（－表示）】

財務諸表等の説明

④ 利益の処分にに関する書類

損益計算の結果、当期に発生した利益の処分について明らかにしたものです。

(単位：百万円)

	平成29年度	平成30年度	差額
I 当期末処分利益	3,392	1,652	△1,740
当期総利益	3,392	1,652	△1,740
II 利益処分類	3,392	1,652	△1,740
目的積立金（教育研究向上及び組織運営改善積立金）	1,034	1,170	136
積立金	2,358	481	△1,877

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

⑤ 国立大学法人等業務実施コスト計算書

大学運営にかかる国民負担額を明らかにしたものです。損益計算書の費用から自己収入を控除し、損益計算書に計上されないコストや機会費用を加味して算出します。

(単位：百万円)

	平成29年度	平成30年度	差額
I 業務費用	38,643	39,713	1,070
(1) 損益計算書上の費用	93,913	95,553	1,640
(2) (控除) 自己収入等	△55,270	△55,840	△570
II 損益外減価償却相当額	4,948	4,627	△321
III 損益外減損損失相当額	0	0	0
IV 損益外利息費用相当額	2	2	0
V 損益外除売却差額相当額	8	0	△8
VI 引当外賞与増加見積額	△34	59	93
VII 引当外退職給付増加見積額	△93	155	248
VIII 機会費用	94	16	△78
・国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	18	16	△2
・政府出資の機会費用	76	-	△76
IX (控除) 国庫納付額	-	-	-
X 国立大学法人等業務実施コスト	43,569	44,575	1,006

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

北大の1年間の運営にかかる
国民一人あたりのコスト

業務実施コスト **445億円**

人口 1億2,631万人

一人当たり **352円**

(算出方法)
業務実施コスト445億円÷人口1億2,631万人
人口：平成31年1月1日現在（総務省統計局データより）

⑧ 決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期の考え方を踏まえ、一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。

(単位：百万円)

区分	平成29年度	平成30年度	増減
収入			
運営費交付金	36,700	39,395	2,695
施設整備費補助金	2,201	1,064	△1,137
補助金等収入	2,349	2,823	474
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	78	78	0
自己収入	39,672	41,937	2,265
授業料及び入学金及び検定料収入	9,582	9,658	76
附属病院収入	28,446	30,596	2,150
雑収入	1,643	1,681	38
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	14,952	15,284	332
引当金取崩	574	568	△6
目的積立金取崩	-	116	116
前中期目標期間繰越積立金取崩	2	0	△2
計	96,531	101,267	4,736
支出			
業務費	72,892	74,960	2,068
教育研究経費	45,665	47,034	1,369
診療経費	27,227	27,925	698
施設整備費	2,279	1,142	△1,137
補助金等	2,359	2,822	463
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	13,328	13,259	△69
長期借入金償還金	1,513	1,172	△341
計	92,374	93,356	982
収入-支出	4,156	7,911	3,755

注）各金額は単位未満を切り捨てているため、計は一致しない場合があります。

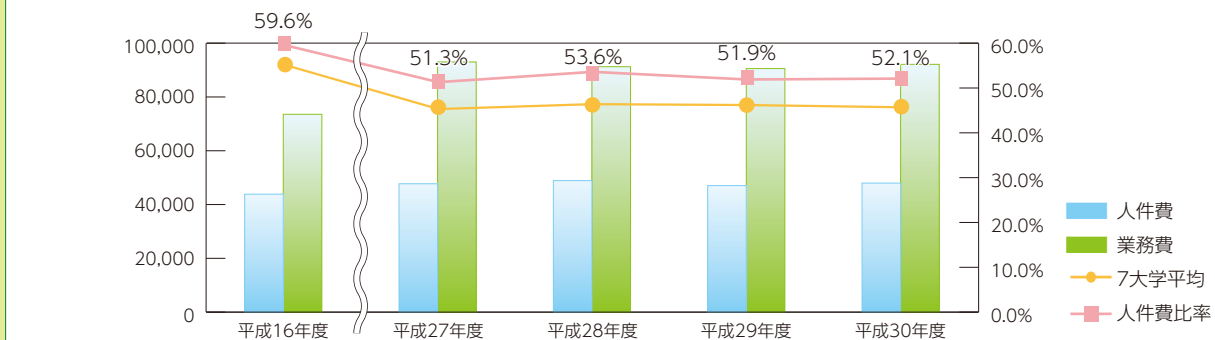
財務指標

財務指標を算出し、他大学等と比較することで、本学の置かれた位置を把握することができます。本学では、主な財務指標について、7大学（北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大）の平均と比較して、経営判断に役立てています。

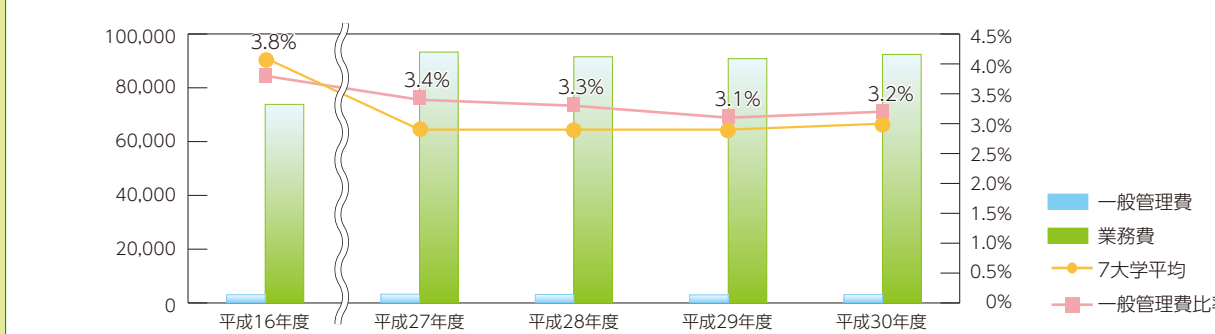
(単位：百万円)

財務指標			28年度	29年度	30年度
内容	計算式	項目			

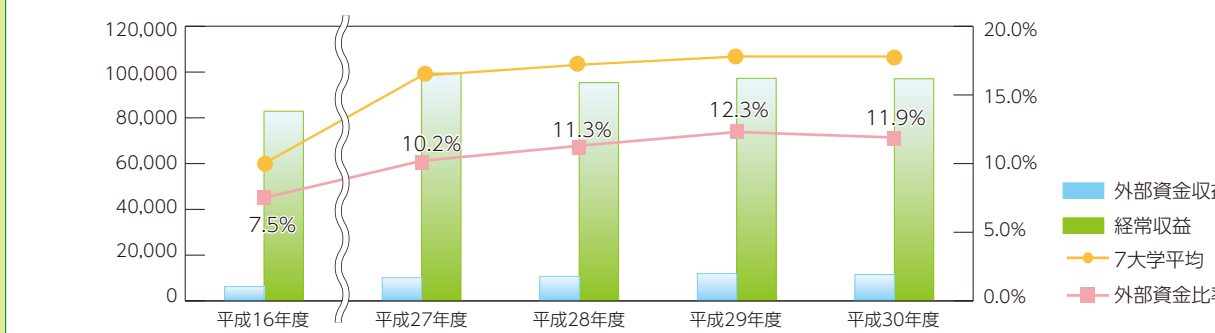
① 人件費比率			(46.4%)	(46.2%)	(45.7%)
業務費に占める人件費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が良いことを示します。	人件費÷業務費		53.6%	51.9%	52.1%
		人件費	48,905	47,036	47,978
		業務費	91,252	90,552	92,130



② 一般管理費比率			(2.9%) 3.3%	(2.9%) 3.1%	(3.0%) 3.2%
業務費に占める一般管理費の割合を示す指標であり、 比率が低いほど効率性が良いことを示します。	一般管理費÷業務費	一般管理費	3,010	2,850	2,951
		業務費	91,252	90,552	92,130



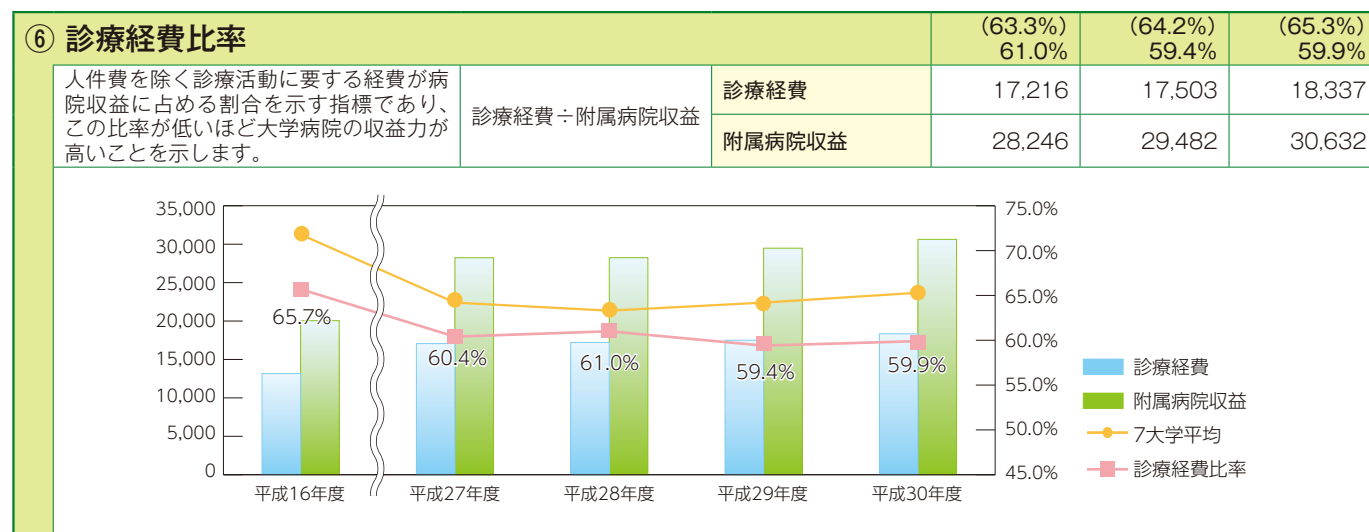
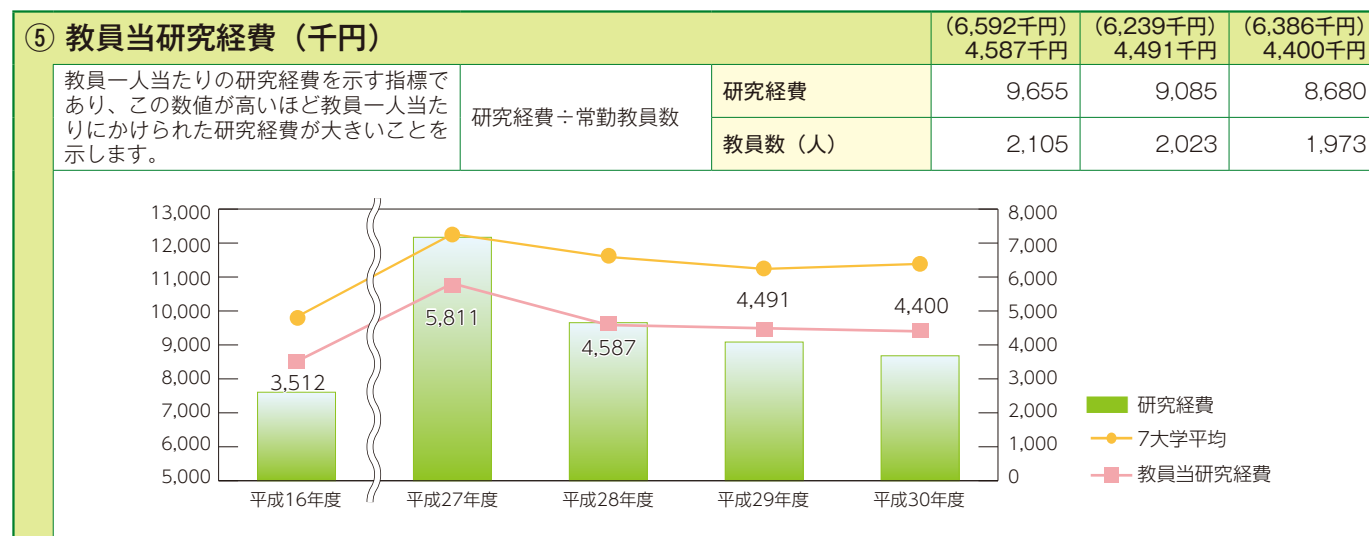
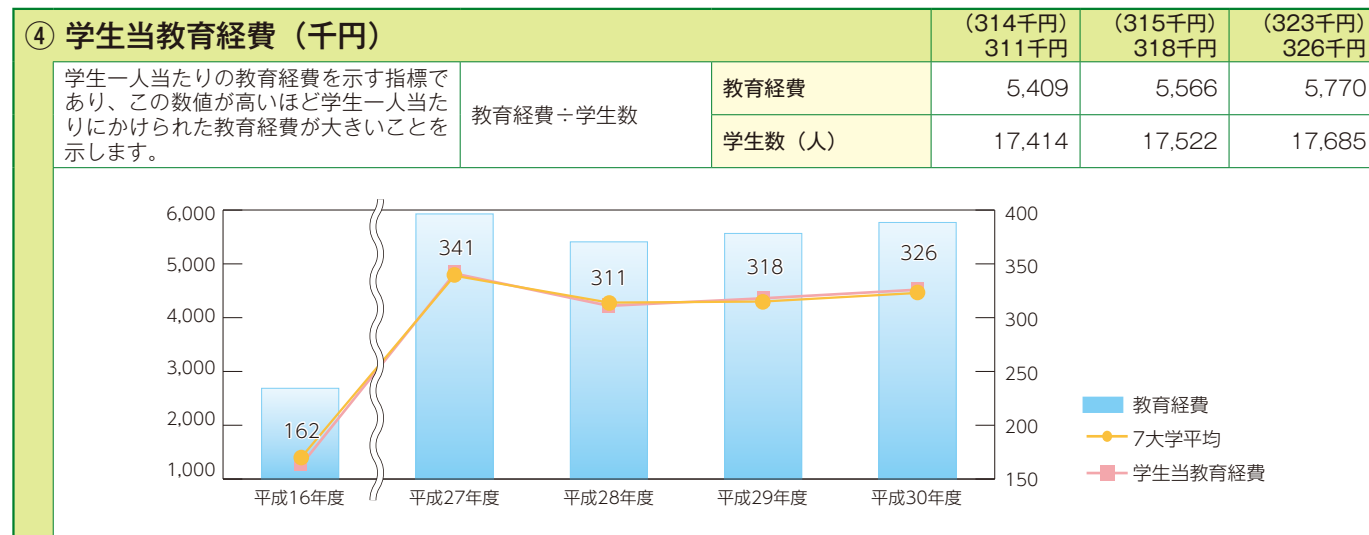
③ 外部資金比率		(17.2%)	(17.8%)	(17.8%)
経常収益に占める外部資金の割合を示す指標であり、比率が高いほど外部資金の受入が拡大していることを示します。	外部資金収益÷経常収益	外部資金収益	10,744	11,956
		受託研究収益	6,163	7,094
		共同研究収益	1,377	1,650
		受託事業等収益	1,040	1,228
		寄附金収益	2,162	1,983
		経常収益	95,358	97,271
			11.3%	12.3%
	11.3%	12.3%	11.9%	



・上段（ ）書きは各年度の7大学平均

財務指標

財務指標			(単位：百万円)		
内容	計算式	項目	28年度	29年度	30年度



・上段（ ）書きは各年度の7大学平均

北大の教育研究の充実のためには皆様の支援が必要です 北大フロンティア基金の取組み

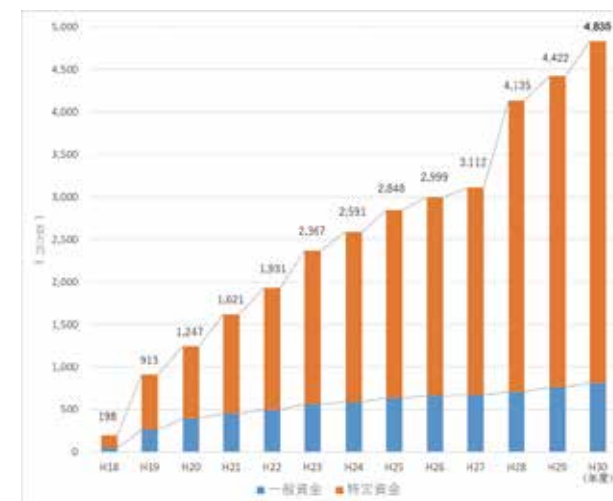
フロンティア基金とは？

運営費交付金が削減される等、国立大学を取り巻く状況が厳しさを増す中、北大が自主・自立的な大学運営を行い、社会へより貢献していくため、皆様のご支援を必要としております。
そのため、北大はフロンティア基金を創設し、平成18年10月から寄附の募集を開始しました。

寄附の種類

北大フロンティア基金は、用途を特定しない「一般資金」と、寄附者の意思により具体的な用途を特定した「特定資金」から構成されています。

基金の状況



平成31年3月現在で累計約48億円

※平成28年度の特定資金には、クラーク記念財団からの承継分677百万円を含む。

寄附方法

北大フロンティア基金 検索



PCから



スマホから



振込用紙から

主な活動

- 学生支援
 - 奨学金
 - 課外活動支援
 - 就職活動支援
 - 新渡戸カレッジ海外留学支援 等
- 学部等支援
 - 講堂整備
 - 教育関連設備の整備 等
- 留学生・国際交流支援
 - 生活困窮学生に対する経済的支援
 - 外国人受入環境整備事業 等



北大みらい投資プログラム

～卒業生から後輩学生へ あたたかいご支援を～

卒業生から後輩学生へ、サポートしたい取り組みを指定して、ご寄附いただけるプログラムです。
下記の用途よりご指定いただけます

- 給付型奨学金
- 海外留学・インターンシップ等資金
- 課外活動等支援資金
- 用途指定資金（特定の学部・研究分野等への支援）

継続寄附のご案内

クレジットカード決済、または口座振替により、継続寄附（毎月・年2回・年1回のいずれかの自動引き落とし）をご利用いただけます。お申込み後の内容変更や解約もインターネットで随時行えます。

税制上の優遇措置等について

北海道大学は、所得税法上の寄附金控除の対象となる法人及び法人税法上の寄附金額の全額損金算入が認められる法人として財務大臣の指定を受けています。
また、一部の地方自治体から寄附金税額控除対象法人として指定されています。一般の寄附金よりも寄附者の税制上の優遇措置が拡大されています。

お問い合わせ先

北大フロンティア基金事務局

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目 北海道大学 事務局内
TEL：011-706-2017 kikin@jimu.hokudai.ac.jp
FAX：011-706-2092 https://www.hokudai.ac.jp/fund/

セグメント情報の開示について

北海道大学では、平成30事業年度より詳細な財務情報を開示するため、財務諸表（附属明細書）において、従来の大学セグメントのうち、研究院（科）・学部のセグメント情報を個別に開示しています。

URL : <https://www.hokudai.ac.jp/pr/30zaimusyohyou.pdf#page=34>

財務レポート2019

発 行：北海道大学財務部主計課財務管理室
所 在 地：〒060-0808 札幌市北区北8西5
電 話：011-706-3991
メー ル：zaikan@finance.hokudai.ac.jp
発行年月：令和元年 10 月

過去の財務レポートは Web でご覧いただけます。

URL: <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/zaimu/>



以下は広告欄です。内容については広告主にお問い合わせください。

NISSEICOM
Grow Together for Making the Future

GrowOne 財務会計

国公立大学を中心に豊富な
導入実績を誇る財務会計システムです。